

## 日本語表現の多様さ、美しさを生かす

—その3(四種類の文字と融合)—

萩原 義雄

### はじめに

日本語が漢字、カタカナ、ひらがな、ローマ字といった四種類の文字を使用した書記言語として用いられるようになった時代を考えてみたい。「おぎゃあ」と生まれたとき既にこの四種の文字が必然的に目の前にあった世代とそれを未来の子どもたちにもどう伝えていくかを試行錯誤していた日本語専門の教育に携わる人たちの軌跡を見つめてみることで、実際の四種類の融合体表記の文章を今回取り上げてみることにしよう。

現代の日本語文字教育で最初に習得する文字表記は、「ひらがな」である。そして、「カタカナ」、やがて「漢字」が徐々に小出しに登場する。小学校に上がる手前の六歳児たちがどのようなようにこれらの文字と出会っているのかと云えば、家の茶の間に置かれたテレビの番組から流れてくる「テロップ文字」、たとえば、天気予報で用いられる例に、「先月の日照時間観測史上最低」「ほうれんそう」「トマト」「高」「寒」「梅雨のはしり」「きょう」「6月の天候」「真夏の暑さ」などと流れてくる情報内容の文字を眺めつつ知っていくことになる。

次に母親が寝しなに読み聞かせてくれた「絵本」もインパクトがあるに違いない。「これなあー」と聞きつつ学習する世界にも文字が当然含まれている。

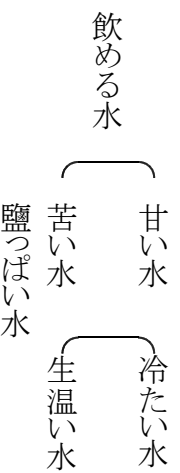
さらには、外出先で大きく書かれた「宣伝広告」や「看板」文字。「会社の社名」文字。「駅名」文字など暇がないほど書記文字との出会いがあることに気づくではあるまいか。これらの文章や文字を通じて、日本人が身近な生活のうえで必要とする「漢字」は、凡そ五千字あるかなきかである。一文字ずつの単漢字と単漢字を膠着させながら習得すべき語彙を増加させていく漢字学習の仕組みも見逃せない特徴と言えよう。日本語が「膠着語」と云う所以がここにあるからだ。

実際、現実との突き合わせのなかで「みず【水】」を身につけたと幼児を想定してみよう。透き通った液体であり、これが硝子製のコップに注がれてテーブルの上に置かれてあれば、誰もが瞬間的にはこれを「水」と判断するであろう。ところが、この水がアルコール分の大量に含まれた大人の飲む「水」、すなわち「酒」であるかもしれない。母親が父の一日の慰労のために用意した「魔水」やも知れない。昔から「酒の異名」として、この「魔水」や「きちがい水」「狂い水」などと「水」の語を用いて呼称していることから理解できよう。このようなまがい物の「水」を子供が一気に飲み干したりしたら重大事に陥る」となる。 <http://www.alpha-net.ne.jp/users2/negotoya/imyou.htm#home>

また、子供たちが大好きな「あめ【飴】」がこの「水」ということばに絡んで「みずあめ【水飴】」という異なる「飴」製品にもなる。『一休頓智咄』『江戸時代成』↓「一休さん」[日本語版↓[中国版](#)]「耳+总」[明的一休 国語片頭]ではないが、和尚さんが日頃大事に賞翫していた壺の「水飴」を一休をはじめとする寺の小僧さんたちが悉く留守中に舐めてしまうという頓智咄が頭をよぎることであろう。

<http://www.youtube.com/watch?v=6vyp9nKx5Zs&feature=related>

逆に泥だらけのどろどろとした「水」を「どろみず【泥水】」として、口にすべきでない「濁り水」「無濾過水」があることも知る。即ち、



飲めない水  
┌ 有毒な水  
└ 無毒な水

さらに、ことわざに云うところの「**寒中の水を飲めば風邪引かぬ**」式の用い方も生まれてくるのである。

## 角川『類語国語辞典』にもとめる

自然・社会・文化といった二つの概念を人である自身のなかで構築していく準備段階にあつて、人は人からその書記情報をすかさず読み解き、情報の要項を手にし、事物の中味を習得していくことが出来るのである。

「自然」「社会」「文化」という二つの言語概念に順つて、人である自己を中心にしてそのことばの習得を図っていく。たとえば、

「自然」：天象・地儀・時節・動物・植物・昆虫・魚介

「社会」：人倫・人名・態藝・官職

「文化」：財寶(＝器財)・色彩・衣服・飲食・言語・数量

といった具合にである。

この分類仕立ての辞典の始まりは、中国の漢代に成立したという『爾雅』(神宮文庫所蔵、南北朝刊)に遡ることが出来る。本邦でも天象部からはじまる源順撰『倭名類聚鈔』(承平四年(九三四))、橘忠兼撰『色葉字類

抄』(長寛二年(一一六四)～治承四年(一一八〇))、東麓破衲編『下學集』(文安元年(一四四四))、『節用集』(文明年間(一四六九～一四八七)頃)などが知られている。

因みに、『爾雅』は、「人」から始まり、「動物」蓄類」で終わる。

これを現代分類に改編すると、

A 人間 1 からだ 2 衣食 3 住居、輸送 4 産業、経済 5 社会生活 6 精神活動 7 表現、伝達

B 自然 8 生物と事物 9 現象 10 空間 11 時間 12 順序・量・質 13 存在と関係  
となつていく。

《補遺》『下學集』の意義分類

① 天地門 ② 時候門 ③ 神祇門 ④ 人名門 ⑤ 人倫門 ⑥ 態藝門 ⑦ 禽獸門 ⑧ 草木門 ⑨ 器財門 ⑩ 光彩門 ⑪ 絹布門 ⑫ 数量門 ⑬ 言語門 から成る。

## 漢字語

日本人は、人に名をつける、すなわち「命名」をするときに多くは、漢字で名前を表記する。たとえば、山口仲美さんの著『日本語の歴史』の「日本語をいつくしむ」(岩波新書214頁)のなかで、「暫く前に、私は日本人の赤ちゃんの名前の調査に立ち会ったことがあります。ステキな字面なのですが、どうにも読めない名前が多くてまいました。次にその一例をかかげますから読んでみてください。」として、次の漢字表記の名前を挙げている。

星凜 栞妃 清楓 聖瑛 明良向 風空土 葵玲 和奏 風水

これを順に「あかり」「れんり」「さやか」「あきら」「あらし」「ふあど」「きりん」「わかな」「かずい」と読ませ、「もの

すごく綺麗な字面です。でも、フリガナがないかぎりよめません。本人も、恐らくこれから何百回も自分の名前の読み方を説明しなければならぬでしょう。これはかなり苦痛なことだと思います」と山口仲美さんはコメントしている。人名と同じように、姓名も難解なものがある。

《補遺》稀姓名の漢字

①【笛吹】「          」。②【          】。「③【          】」。④【          】」。⑤【          】」。⑥【          】」。⑦【          】」。⑧【          】」。⑨【          】」。⑩【          】」。

如何かな。自ら調べてみよう。また、あなたが知っている「稀姓名」を書き出してみよう！

## ひらがな語

〈同音異義語〉

「きしゃのきしゃがきしゃできしゃした」

「にわにはにわにわとりがいる」

## カタカナ語

ことばのコラム

「カタカナテスト(二〇問)」

<http://www.start-point.net/katakana/>

『カタカナ語辞典』

<http://www.rinkan.com/katakana.htm>

「官庁カタカナ語」一覧

(表2)カタカナ語の理解度

【ベスト20】順位 外来語 語 義 理解率(%)

- 1 ストレス 肉体的、精神的な緊張や圧迫 92.6
- 2 リサイクル 廃品や資源の再利用、再生 91.9
- 3 ボランティア 自発的に奉仕活動をする人 90.8
- 4 テーマ 主題、題目 88.2
- 5 レクリエーション 休養、娯楽、気晴らし 87.7
- 6 サンプル 見本、標本、試供品 87.5
- 7 リーダーシップ 統率力、指導力 85.1
- 8 スタッフ 職員、幹部 83.4
- 9 フルタイム 常勤の、専任の 82.7
- 10 ホームページ インターネットで提供される情報のページ 82.6
- 11 キャンペーン 選挙運動、宣伝活動 82.2
- 12 リフレッシュ 気分を一新する 81.5
- 13 インターネット 相互に接続された世界規模の通信網 78.3
- 14 プロジェクト 計画、企画、開発事業 78.2
- 15 ドキュメント 文書、記録、証書 77.9
- 16 ピーク 最高潮に達する点、頂点 77.4
- 17 パフォーマンス 実行、功績、公演、人前での表現行為 76.2
- 18 ケア 手当て、世話、保護、介護 75.6
- 19 コスト 値段、費用、原価、経費、生産費 74.8
- 20 ホワイトカラー 事務系労働者 73.3

- 【ワースト20】順位 外来語 義理解率(%)
- 1 インキペーション 企業支援、育成 3.3
  - 2 エンフォーシメント 法律などの施行・執行 3.4
  - 3 コンソーシアム 企業連合体、共同企業体 4.1
  - 4 タスクフォース 特定任務のために編成された部隊 4.9
  - 5 メセナ 企業などによる芸術や科学の擁護、援助 5.7
  - 6 エンパワーメント 権限の付与 5.7
  - 7 トレーサビリティ 生産流通の履歴を管理し追跡できる仕組み 6.1
  - 8 リテラシー 読み書きの能力、識字率 6.3
  - 9 ガバナンス 支配、統治、社会的統括 6.8
  - 10 バックオフィス 後方で事務処理や管理業務を行う部門 7.8
  - 11 デジタルアーカイブ 資料をデジタル情報で保管すること 9.0
  - 12 ジェンダー 社会、文化面の性差 10.0
  - 13 スキーム 公的な計画、枠組み 10.4
  - 14 インセンティブ 誘因、刺激、動機 10.4
  - 15 モラルハザード 道徳的危険、道徳的節度を失った行動 10.5
  - 16 モラトリアム 猶予、債務の返済期日を延期すること 11.4
  - 17 サマリー 要約、まとめ 11.6
  - 18 ノーマライゼーション 健常者と障害者とが隔てなく一緒に暮らす社会にすること 12.2
  - 19 スケールメリット 規模の大きさに伴う利益 13.4
  - 20 キャッチアップ 追いつく、遅れを取り戻す 13.6

### ローマ字語

石川啄木『ローマ字日記』(明治四十二年(一九〇九)、桑原武夫編訳・岩波文庫刊)袖書きに、「ローマ字という媒体ゆえに赤裸々に自由に描き出される啄木の自己・困苦の現実生活から生み出される甘美な青春文学の源はここに」と記述されている。

Haru rasi Hikage ga Mado no  
 Surigarasu wo atataka ni somete, Kaze  
 sae nakuba Ase de mo nagare so> na  
 Hi de atta. Itu mo kuru Kasihonya no  
 Oyadi, Te-no-hira de Hana wo  
 kosuriage nagara, “Hidoku huki masuna  
 >.” to itte haite kita.

## 「」と「」の置き換え

- 「写真機」が「カメラ」
- 「乗合自動車」が「バス」↓「BUS」
- 「乗用車」が「カー」
- 「乗業乗用車」が「タクシー」↓「TAX」
- 「自転車」が「サイクル」「バイク」↓「けた」
- 「放送用無線電話」が「ラジオ」「テレビジョン」↓「テレビ」↓「TV」
- 「機関車」が「ディゼル」
- 「電子計算機」が「コンピュータ」

## 「」と「」の実際、「じ」のつくことば

### 日本語1

- 「じみち」「じみ」「じつ」としている「じつと見る」「じりじりしている」「じわじわ動く」「汗がじつじつ」
- 「じめじめ」「じーんと感じる」「信じる」「通じる」「捻る」「よじる」「くじる」「そむく」「さむ」
- 「こじ開ける」「まじまじと見る」「みじめ」「あじわう」「にじり寄る」「にじ＝虹」「ダジ」「おじおじ」

- 「いじける」「いじらし」「おじけづく」「かじかむ」「くじける」「たじろぐ」「おじさん」「じろじろ見る」
- 「やじろぐえ」「うじむし」「なめくじ」「へんじひ」
- 「ジェット機」「ジェラシー」

### 日本語2

- 「実は」「齧る」「挫く」
- 「自慢」「文字」「事件」「類似」「指示」「炊事」「通詞」
- 「意地悪」「いじめる」「始まる」「同じ」「混じる」「舵」

### 英語1

- 「JACK」＝ジャッキ＝目立たぬよう、徐々に事が行われる」
- 「JAM」＝ギッシリ詰め込む＝徐々に、危険が、増す」
- 「JEWEL」＝宝石＝徐々に光沢が現われる」
- 「JINGLE」＝小鈴の音＝小さな音の継続」
- 「JOIN」＝接合＝個体の静かな継続」
- 「JUGGLE」＝手品＝小手先な判断不能の継続」
- 「JUST」＝公正な＝判断の積み重ね」

### 英語2

- 「JUNGLE」と「ZUNGLIE」。「JUDDGE」と「ZUDDGE」＝やまやまな判断」。
- 「JORNNEY」＝NO＝さまやまな区域」「JAG」＝ZAG＝さまやまな危険」。

「ZIGZAG」と「JIGSAW」。

漢語1

「時」「地」「次」「治」「児」「持」「自」「餌」「侍」「而」「耳」  
「拾」「呪」「寿」「樹」「需」  
「充」「重」「住」「渋」「絨」  
「序」「徐」「助」「女」  
「情」「常」「錠」「条」「丞」「浄」「成」「釀」「茸」「尚」「讓」「静」

漢語2 「膠着性」と「連続性」による合成語

「慢性進行性重力性細胞肥大症」  
「人工衛星建設整備工場」  
「大型物資自動製造機」  
「日本輸出品陳列館」「無重力状態」「電気掃除機」  
「人員整理」「滞空時間」「集団農場」「暗示療法」「自動装置」「自分自身」「宇宙時代」「非常警報」  
「準備万端」「女帝陛下」「神田明神」「意志薄弱」  
「腹話術」「地球上」「学問上」「歴史上」「受話器」「部屋中」「野球場」「誕生日」「磁力靴」「従業員」  
「群青色」<sup>ぐんせいしょく</sup>「御慈悲」「原住民」「悪条件」「大丈夫」「日本人」  
「自由」「順番」「近所」「劇場」「天井」「教授」「住民」「住居」「群青」「嚴重」「事情」「事態」「事故」「訊問」  
「重要」「重力」「乗船」「時間」「返事」「無事」「大事」「食事」「一陣」「地上」「怪獣」「上手」「殉教」「非情」  
「心情」「人情」「確実」「冗談」「軍人」「現実」「状態」「人物」「次男」「上陸」「情況」

## 四種文字の文章

〈用例その1〉

○偉大なるキリスト者であり祖国愛の人でもある内村鑑三は「二つのJ」を愛すと言った。キリスト(JESUS)と日本(JAPAN)である。戦争とも無関係である。「藤原正彦著『祖国とは国語』の「パトリオティズム」より

ここには、漢字、ひらがな、カタカナ、ローマ字と呼ばれる文字が用いられ、一つの文章を形成している。

漢字表記の「偉大」「者」「祖国愛」「愛」「日本」「戦争」「無関係」の語は字音語である。漢字表記でも、「人」「二」「言」は和語であり、固有名詞である「内村鑑三」は混種語である。ひらがな表記の「なる」「であり」「の」「で」もある。「は」「を」「すと」「った」と「である」「とも」である「は和語であり、カタカナ表記の「キリスト」は外来語である。最後にローマ字表記の語「J」は「JESUS」「JAPAN」のスペルを表すものである。

〔課題〕 こうした漢字、ひらがな、カタカナ、ローマ字の標記語が用いられている一文を見出してみよう。  
〈用例その2〉

○××製菓のPRを手伝ったり、住んでいた宝塚の少女歌劇の機関誌を手伝ったり、民放が開局した当時アナウンサーの試験をうけてみたり、桂春団治のために寄席のポスターを書いたりした。『手塚治虫ランド』ジキル博士とマンガ氏」47頁上⑩く⑭・大和書房、一九七七年刊」

↑語分類…A字音漢字【製菓】【少女歌劇】【機関誌】【民放】【開局】【当時】【試験】。B和語漢字【手伝】【住】【宝塚】【書】。C混淆漢字【桂春団治】【寄席】。Dカタカナ字【アナウンサー】【ポスター】。Eひらがな字【の】【5】【った

り【2】んでいた【を】3【が】【した】【うけてみたり】【のために】【いたりした】【F】ローマ字【P】R】

- 
- 

《参考資料》

石橋四郎編『和漢酒文献類聚』〔第一書房刊〕 <http://www.kt.rim.or.jp/~dai-1/shinkan/shokai/670.html>

宮永節夫著『日本水鳥記器』〔友月書房、平成一八年刊〕 <http://www.jswork.jp/syoten/bookview-2.asp?bo>

okno=102847